

# 安全データシート(SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

製品名	ブチルセロソルブ
製品コード	
会社名	三成化工株式会社
住所	大阪市城東区関目4-11-38
電話番号	06-6932-3531
FAX番号	06-6932-3830
メールアドレス	sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp
推奨用途及び使用上の制限	ラッカー、インキ、樹脂溶剤

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

#### 物理化学的危険性

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分4
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない

#### 健康に対する有害性

急性毒性－経口	区分4
急性毒性－経皮	区分3
急性毒性－吸入(ガス)	区分に該当しない
急性毒性－吸入(蒸気)	区分2
急性毒性－吸入(粉じん)	分類できない
急性毒性－吸入(ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分2A
感作性－呼吸器	分類できない
感作性－皮膚	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
生殖毒性・授乳影響	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(血液系、呼吸器、肝臓、腎臓)
	区分3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(血液系)

環境に対する有害性	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素  
絵表示



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
可燃性液体  
飲み込むと有毒  
皮膚に接触すると有害  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
吸入すると生命に危険  
眠気またはめまいのおそれ  
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い  
血管系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害  
長期にわたる、または反復ばく露による血液系の障害

注意書き

【安全対策】  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。  
禁煙。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
取扱後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】  
飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合：多量の水/石鹼で洗うこと。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。  
直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。  
気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。  
特別な処置が必要である(このラベルの応急措置を見よ)。  
特別な処置が必要である(このラベルの応急措置を見よ)。  
口をすすぐこと。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。

**【保管】**

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 単一製品

化学名	化学式	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	含有量
ブチルセロソルブ	C6H14O2	111-76-2	(2)-407	100%

### 4. 応急措置

**吸入した場合  
皮膚に付着した場合**

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
皮膚に付着した場合：多量の水/石鹼で洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
特別な処置が必要である(このラベルの応急措置を見よ)。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

**眼に入った場合**

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

**飲み込んだ場合**

気分が悪い時は医師に連絡すること。  
口をすすぐこと。

**予想できる急性症状及び遅発性症状の  
最も重要な兆候及び症状**

吸入：咳、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、視力障害。  
皮膚：皮膚の乾燥、発赤。  
眼：発赤、痛み。  
経口摂取：腹痛、息切れ、嘔吐、痙攣、意識喪失、咳、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、視力障害。  
眼、皮膚、気道を刺激する。  
意識を喪失することがある。  
失明することがあり、場合によっては死に至る。  
持続性あるいは反復性の頭痛、視力障害を生じることがある。

**応急措置をする者の保護**

必要に応じて有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器、手袋等の保護具を着用する。

**医師に対する特別注意事項**

上記参照。

### 5. 火災時の措置

**消火剤**

小火災：二酸化炭素、粉末消火剤  
大火災：散水、噴霧水、一般の泡消火剤  
棒状放水

**使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性**

加熱により容器が爆発するおそれがある。  
極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
消火後再び発火するおそれがある。  
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。  
引火性の高い液体および蒸気  
加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法	屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 引火点が極めて低い：消火の候化がないおそれがある場合は散水する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
消火を行う者の保護	

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具および緊急措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

環境に対する注意事項

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

作業者は適切な保護具(「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

回収・中和

少量の場合、乾燥土、砂や不活性吸収物質で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

封じ込め及び浄化方法・機材  
二次災害の防止策

危険でなければ漏れを止める。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 眼に入れないこと。 接触、吸収又は飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
	接触回避	
保管	技術的対策	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作る

**混触危険物質  
保管条件**

こと。  
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。  
 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。  
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。  
 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
 『10. 安定性及び反応性』を参照。  
 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。  
 ー禁煙。  
 酸化剤から離して保管する。  
 容器は直射日光や火気を避けること。  
 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。  
 施錠して保管すること。  
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。  
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

**容器包装材料**

**8. ばく露防止及び保護措置**

	管理濃度	許容濃度 日本産業衛生 学会	許容濃度 ACGIH (TLV-TWA)
ブチルセロソルブ	25ppm	未設定 (2014年版)	20ppm (2014年版)

**設備対策**

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。  
 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

**保護具**

- 呼吸用保護具
- 手の保護具
- 眼の保護具
- 皮膚及び身体の一部の保護具

防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器  
 保護手袋(耐油性)  
 保護眼鏡、ゴーグル  
 保護長靴(耐油性)、防災面、保護服、保護前掛  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。

**衛生対策**

**9. 物理的及び化学的性質**

物理的状態	形状	液体
	色	無色透明
	臭い	特徴臭
	pH	7: SIDS
融点・凝固点		-74.8°C
沸点、初留点及び沸騰範囲		168.4°C
引火点		62°C
自然発火温度		240°C
燃焼性(固体、ガス)		データなし
爆発範囲		□l vol% (93°C)~12.7vol% (135°C) (vol% in air)

蒸気圧	0.76mmHg(20°C) [換算値 101Pa(20°C)]
蒸気密度	4.1 (空気=1)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	0.90
溶解度	可溶
オクタノール・水分配係数	log P = 0.83
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

## 10. 安定性及び反応性

### ブチルセロソルブ の情報

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	爆発性過酸化物を生成することがある。強力な酸化剤と反応し、火災や
避けるべき条件	60°C以上
混触危険物質	強力な酸化剤
危険有害な分解生成物	爆発性過酸化物

## 11. 有害性情報

### ブチルセロソルブ の情報

急性毒性	経口	ラットのLD50値として、470-3,000 mg/kg の範囲内で10件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ(4件)(470 mg/kg、917 mg/kg(環境省リスク評価第6巻(2008))、約1,500 mg/kg(NTP TR484(2000))、1,746 mg/kg(SIDS(1997)、NICNAS(1996))が該当する区分4とした。なお、2件が区分外(国連分類基準の区分5)、4件が区分4又は区分5に該当する。
	経皮	ラットのLD50値として、> 2,000 mg/kg の範囲で3件の報告がある。ウサギのLD50値として、72 mg/kgから> 2,000 mg/kg の範囲内で16件の報告があり、合計19件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ(9件)(220 mg/kg(ATSDR(1998))、220 mg/kg(環境省リスク評価第6巻(2008))、約400 mg/kg(ACGIH(7th, 2003))、435 mg/kg(SIDS(2007)、NICNAS(1996))、404-502 mg/kg(CICAD 67(2010))、405-504 mg/kg(DFGOT vol. 6(1994)、ECETOC TR95(2005))、567 mg/kg(雄)、636 mg/kg(雌)(NICNAS(1996))、612 mg/kg(DFGOT vol. 6(1994))、841 mg/kg(1,060 mg/kg(雄)、667 mg/kg(雌))(EU-RAR(2006)、ECETOC TR95(2005))が該当する区分3とした。なお、2件が区分2に、2件が区分2又は区分3に、1件が区分3又は区分4に、2件が区分外に該当する。新たな情報源(ACGIH(7th, 2003)、ATSDR(1998)、CICAD 67(2010)、DFGOT vol. 6(1994)、ECETOC TR95(2005)、EU-RAR(2006)、NICNAS(1996)、NTP TR484(2000)、SIDS(2006)、SIDS(2007)、環境省リスク評価第6巻(2008))を追加し、分類を見直した。
	吸入	吸入(ガス): GHSの定義における液体である。  吸入(蒸気): ラットのLC50値(4時間)として、450 ppm(SIDS(2007)、環境省リスク評価第6巻(2008))、486 ppm(雄)、450 ppm(雌)(ACGIH(7th, 2003)、ATSDR(1998)、CICAD 67(2010)、ECETO TR95(2005)、NICNAS(1996)、NTP TR484(2000)、SIDS(2006))、500 ppm(ATSDR(1998))との報告に基づき、区分2とした。

## 皮膚腐食性/刺激性

吸入(粉じん): データ不足のため分類できない。

吸入(ミスト): データ不足のため分類できない。

ウサギを用いた皮膚刺激性試験の報告が複数あり、OECD TG 404相当の2試験では「刺激性あり」(SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、NICNAS (1996))、所見として重度の持続的な紅斑及び重度の浮腫がみられたが7日後には回復したと報告されている(SIDS (2006))。他の4時間適用をおこなった皮膚刺激性試験では「軽度の刺激性あり」、あるいは「刺激性あり」と報告されている(SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、EU-RAR (2006))。また、ウサギに24時間、半閉塞条件下で適用した結果、適用直後に軽度から中等度の紅斑(5/6匹)、軽度の浮腫(4/6匹)がみられ、適用48時間後には軽度から中等度の紅斑(4/6匹)、軽度の浮腫(3/6匹)がみられた(EU-RAR (2006))。本試験における一次刺激スコアは1.5であった。また、モルモットを用いた皮膚刺激性試験においても「刺激性あり」との結果がある(SIDS (2006)、EU-RAR (2006))。以上の結果から区分2とした。なお、本物質はEU DSD分類で「R38」、EU CLP分類で「H315 Skin Irrit. 2」に分類されている。

## 眼に対する重篤な損傷/刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405、GLP準拠)において、投与後24-27時間後の角膜混濁のスコア0.9、虹彩炎のスコア0.6、結膜炎のスコア2.6、結膜浮腫のスコア1.8であり、21日後までに回復したとの報告がある(ECETOC TR95 (2005)、EU-RAR (2006))。また、他にもウサギ用いた眼刺激性試験の報告が複数あり、ドレイズ試験法で強度の刺激性を示した(SIDS (2006)、EU-RAR (2006))との報告がある。また、ヒトでは痛みを伴う刺激とともに時に角膜混濁も起こすが、その症状は一般に数日以内に回復すると記述されている(DFGOT vol. 6 (1994))。以上の結果から区分2Aとした。

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性: データ不足のため分類できない。

皮膚感作性: モルモットを用いたマキシマイゼーション試験(OECD TG 406、GLP)において、陰性との報告があり(SIDS (2006)、ECETOC TR95 (2005)、NICNAS (1996))、別のマキシマイゼーション試験においても、陰性を示したとの報告がある(SIDS (2006)、ATSDR (1998)、NICNAS (1996))。また、ボランティア200名に対して本物質10%水溶液のパッチテスト(GLP準拠)を実施した結果、陰性を示したとの報告がある(SIDS (2006))。またボランティア214名に対するパッチテストにおいても、陰性を示したとの報告がある(ATSDR (1998)、ECETOC TR95 (2005))。以上の結果より区分外とした。

## 生殖細胞変異原性

ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、ラット、マウスの骨髄細胞を用いた小核試験で陰性(環境省リスク評価第6巻(2008)、SIDS (2007)、EU-RAR (2006)、NICNAS (1996))である。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、姉妹染色分体交換試験で陰性、陽性の結果が存在し、染色体異常試験、小核試験では陰性の結果となっている(EU-RAR (2006)、NICNAS (1996)、SIDS (2007)、環境省リスク評価第6巻(2008))。

## 発がん性

IARCではグループ3 (IARC 88 (2006))、ACGIHではA3 (ACGIH (7th, 2003))、EPAではグループC (IRIS (1999)) と分類され発がん性の評価が異なった。しかし、EPAはその後の評価で、本物質はヒトに対して発がん性物質ではなさそうであるとの見解を示し (IRIS TR (2010))、SIDS (2007) においても、同様に発がん物質であるとの根拠はないとしている。以上より、ガイダンスの改訂により「分類できない」とした。

## 生殖毒性

ラットを用いた吸入経路での催奇形性試験、ウサギを用いた吸入経路での催奇形性試験 (OECD TG 414)、ラットを用いた経口経路 (強制) での催奇形性試験 (OECD TG 414) において、母動物毒性 (体重増加抑制、臓器重量の変化、血液パラメータの変化) がみられる用量 (吸入では200 ppm (970 mg/m<sup>3</sup>)、経口では200 mg/kg bw/day) で発生影響 (着床数の減少、吸収胚の増加など) がみられた (SIDS (2006))。したがって、区分2とした。

## 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

ヒトにおいては、吸入経路及び経口経路で気道の刺激性、嘔吐、眩暈、嗜眠、昏睡、呼吸困難、散瞳、代謝性アシドーシス、ヘモグロビン低下、血尿、経口摂取で、低カリウム血症、血清クレアチニン濃度の上昇、シュウ酸エステル結晶の尿中排泄量の著しい増加、低酸素血症、肺水腫、成人呼吸窮迫症候群 (ARDS)、血小板減少を伴う非溶血性低色素性貧血が報告されている (EU-RAR (2006)、SIDS (2007)、環境省リスク評価第6巻 (2008)、ACGIH (7th, 2003))。ラットの450 ppmの吸入ばく露で、浅速呼吸、協調運動の喪失、泌尿生殖器周囲の赤色化、腎臓の肥大及び脱色、膀胱の赤色液 (SIDS (2007))、486 ppmで重度のヘモグロビン尿、呼吸困難、肺、腎臓、肝臓、脾臓の変化 (具体的な記載なし) (ACGIH (7th, 2003))、475 ppmで血尿、協調運動不良、マウスの吸入ばく露では、560 ppm以上で、呼吸困難、重度のヘモグロビン尿、脾臓の濾胞での貪食像及び静脈鬱血、限局性壊死、リンパ過形成、間質性腎炎、気管支肺炎 (EU-RAR (2006)) が見られた。経口ばく露では、ラットの1,120-1,420 mg/kgで不活発、衰弱、昏睡、肺の出血、腎臓の重度の鬱血、ヘモグロビン尿、血尿、斑状肝、マウスの1,519-2,005 mg/kgで活動低下、努力呼吸、呼吸困難、無食欲、振戦、高用量で血尿、死亡動物で胃腸の出血 (EU-RAR (2006)) の報告がある。経皮適用では、ウサギの72-225 mg/kgで衰弱、低体温、ヘモグロビン尿、昏睡、呼吸不全、腎傷害、肺の変化 (詳細記載なし)、肝臓の鬱血、間葉系の反応を伴う壊死巣、不定脂肪変性、脾臓の鬱血、ヘモグロビン血症性ネフローゼを伴う腎臓肥大、壊死を伴う皮膚病変 (EU-RAR (2006)) の報告がある。なお、これらの所見は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、区分1 (血液系、呼吸器、肝臓、腎臓)、区分3 (麻酔作用) とした。



## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ヒトでの知見は反復ばく露影響に関して利用可能な情報はない(SIDS(2007)、CICAD 67(2010))。実験動物ではラットに13週間飲水投与した試験で、区分2相当の用量(約70 mg/kg/day)で、血液系への影響(赤血球数減少など)、精子濃度の減少がみられた(CICAD 67(2010))。吸入経路ではラット及びマウスにおける14週間及び2年間吸入ばく露試験において、区分1に該当する低濃度(0.15 mg/L/6 hr)から、貧血所見(赤血球、ヘモグロビン濃度及びヘマトクリット値の減少、網赤血球比率の増加など)がみられており(SIDS(2007)、CICAD 67(2010))、影響はマウスよりラットで強く、雄より雌で強く発現する傾向がみられた(CICAD 67(2010))。ラット、マウスともに14週間吸入ばく露試験では、区分外の高濃度で脾臓の髓外造血亢進、脾臓、肝臓、腎臓におけるヘモジデリン沈着、骨髄での造血細胞増生など血液影響に関連した二次的変化が認められている(CICAD 67(2010))。なお、本物質ばく露ではヒト、実験動物のいずれにも精巣への明らかな影響を生じなかった。以上より、区分1(血液系)に分類した。

## 誤えん有害性

データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

### 水生環境有害性—短期間(急性)有害性

ブチルセロソルブ の情報  
魚類(シブスヘッドミノー)での96時間LC50 = 116 mg/L(環境省リスク評価第6巻, 2008、他)、甲殻類(ウシエビ属)での96時間LC50 = 130 mg/L(環境省リスク評価第6巻, 2008、他)であることから、区分外とした。

### 水生環境有害性—長期間(慢性)有害性

急速分解性があり(BODによる分解度:96%(既存点検, 1976))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=0.83(PHYSROP Database, 2009))ことから、区分外とした。

### オゾン層への有害性

データなし。

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

### 汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報

IMOの規定に従う。

航空規制情報

ICAO・IATAの規定に従う。

### 国内規制

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

### 特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

重量物を上積みしない。

### 国連番号

2810

### 緊急時応急措置指針番号

153

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物  
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)  
名称等を表示すべき危険物及び有害物  
(法第57条、施行令第18条別表第9)

有機溶剤中毒予防規則; 第二種有機溶剤等  
(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)  
作業環境評価基準

PRTR法

第1種指定化学物質

化審法

優先評価化学物質  
(化審法第二条第五項)

航空法

毒物類・毒物

船舶安全法

毒物類・毒物

消防法

第4類 引火性液体、第二種石油類 水溶性液体

## 16. その他の情報

参考文献

厚生労働省 職場の安全サイト GHSモデルSDS情報  
NITE 化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)

記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策の実施にご配慮をお願いいたします。

また、記載内容は情報提供であってその内容を保証するものではありませんので、重要な決定をされる場合は出典等をよく検討されるか試験によって確かめられることをお勧めします。